

# 民報 ゆうばり

# 「りすた」にグランドピアノ移設を求める請願書提出

## 新婦人夕張支部絵手紙サークルが作品展示

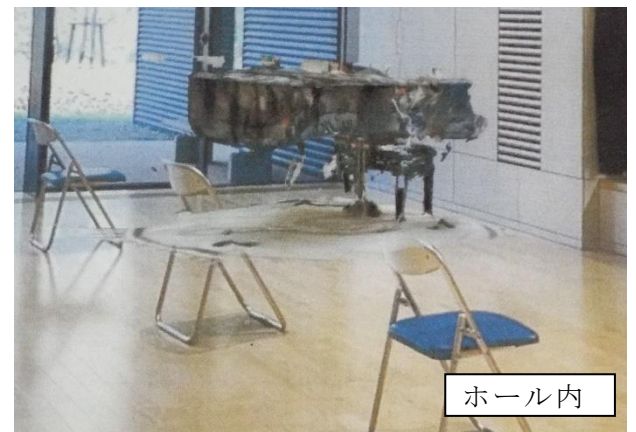
### 1411筆の賛同者署名を添えて提出

11月19日、文化協会をはじめ4団体は千葉勝、小林尚文両議員の紹介で、標記の要請書を市議会議長に賛同者署名数1411筆を添えて提出しました。

署名活動では美術協会、書道連盟、池坊夕張支部、夕美会、リンデンコール他コーラスグループ、市社協、夕教組、観光協会など多数の団体が市内外から賛同者署名を集めました。また、元のぞみ小学校PTA一同からは独自で市長へ要望書が出されました。複合施設「りすた」は多くの市民が活用していますが、音楽文化活動にとってはグランドピアノが設置されていないこと支障をきたしています。複合施設建設の過程では市民代表委員が精力的に視察・検討してきました。

しかし最終的には設置場所などの確保が困難と判断されたのか現在に至っていません。

(以下の図は移動用器具と設置場所イメージ図です。)



ホール内



ロビーに

2021年11月19日

夕張市議会議長 大山 修二 様

### 複合施設「りすた」にグランドピアノ移設を求める請願書

貴職におかれましては日夜公務にご多忙のこととご推察申し上げます。

コンパクトシティ構想のもと、複合施設「りすた」が2020年3月完成し、市民供用開始された事は大きな喜びです。私たちは、市民活動の文化創造と継承・子育て等の拠点として大いなる期待を抱いて完成を待ち望んでおりました。

新型コロナウイルス感染症のため閉館となった時期もありましたが、これまで多くの市民が拠点施設として活用しています。

しかし、残念なことに多目的ホールにグランドピアノが設置されておらず、そのことが音楽活動に支障をきたしています。ご承知のとおり他市町村施設には、グランドピアノが設置されています。音楽文化ではピアノが中心となって発展してきています。当市に設置されていないことは音楽発表会や演奏会開催に向けてマイナスになります。財政難で新しいピアノは購入できないことをふまえ、ホテルシュエパロに保管されている旧市民会館のグランドピアノをぜひ移設させていただきたく請願する次第です。

最後に、健気に生きる子どもたちや市民の情操の涵養をはかる場所や機会を保障するよう請願署名を添えて、重ねて要請するものです。

呼びかけ団体 夕張市文化協会会長 小林 和拓  
 夕張音楽協会会長 滝口 光男  
 旧夕張市民会館運営委員会代表 小澤美穂子  
 一般社団法人清水沢プロジェクト  
 代表理事 佐藤真奈美

請願事項1. 複合施設「りすた」にグランドピアノ移設を求めます。

請願者の住所 夕張市南清水沢4丁目28番地39  
 請願者代表 夕張音楽協会会長 滝口 光男 印

紹介議員 夕張市議会議員 千葉 勝  
 夕張市議会議員 小林 尚文

# 絵手紙サークルが作品展

新婦人夕張支部絵手紙サークルは7日から12日まで、複合施設「りすた」ロビーで日ごろの作品を展示しました。作品を紹介します。



## くずさんの 夕張歴史散歩(169)

石炭博物館模擬坑の火災

(番外編④)

### 採炭方法と通気②

タヌキ掘りから炭層に沿った採炭方式に代わって生まれた「槌組」による採炭でした。

「槌組」とは、先山と呼ばれる熟練者と、それに習う後山2〜3人が組となって一定の幅の切羽を受け持ち、先山は毎日四丁ほどのつるはし\*（後にコールピックと呼ばれる削岩機を使用）を使って掘り進みます。この採炭方法では、隣の組との能率の差で切羽面はでこぼこになり、隣と差がつかないように槌組の意地がぶつかり合います。自然と労働強化になります。

ここでは、腕の良い先山と、要領よく資材（支柱の木材やトロッコなど）を確保し仕事を容易にする機転の利く後山との連帯がものを言います。それは現場を離れても、私生活の上でも家族並みの付き合いが生まれていました。

### 通気の基本

まず入気側（上添）と排気側（ゲート）の2本の坑道を掘りすすみ（掘進）、その間をつないで通気を確保します。このつないだ部分が切羽になります。

これで通気は一方通行で抜けていきます。以後この形式が坑内通気の基本になります。入気側には、コンプレッサーを置き坑内に強制的に空気を送ります。

\* 昭和初期ころ天竜坑前には坑口鍛冶があって、先山は採炭に使ったつるはしを焼き直していた。出坑して風呂に入る前に、まず道具の手入れをする職人肌の先山たちです。



島山 和也「かけある記」  
元衆議院議員  
島山 和也

### 道民の苦難そっちのけで憲法改悪か

総選挙後の挨拶で、道内に21ある党地区委員会を中心にまわりました。どこでも「残念」「がっかり」との声を聞きつつ、激励もつけながら「来年の参院選がんばろう」と交流しあいました。なにしろ急いで取り組むべき課題は山積みなのです。

先週は十勝管内へ、紙智子、岩渕友の両参議院議員による調査に同行しました。沿岸で深刻な赤潮被害は、死滅したウニなどは数えられるものの、赤潮を避けて網にかからないような秋サケは被害と数えられていないなど、実際の被害は数字以上の深刻さなのです。「再開できる時まで、仲間が欠けないように支援してほしい」との訴えが重く響きました。

本別町では製糖工場の閉鎖が発表され、「雇用の場は」「てん菜生産へ影響が出ないか」との不安も聞きました。生乳も「学校給食がない冬に余る恐れがある」とされ、「国が増産するよう政策誘導してきたのではなかったか」と怒りの声も。農家が苦しんでいるのに食料輸入を続けることに、ズバリ「そもそも国は食料自給率を上げる気がないので」と出された発言にうなずきました。

こんな時に岸田文雄首相や自民党、さらに維新は憲法改悪を熱心に進めようとしています。まさに国民そっちのけ。26日には私も上京して党道議団と政府交渉をおこない、道民のくらしと生業を守れと訴えます。議席はなくとも、揺るがず地に足つけた活動を続けてこそ日本共産党。私も新たな気持ちでがんばりたい。